

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	英 語
-----	-----

発行者	総合的な所見
東 書	<p>第1の観点</p> <p>①単元の初めのページに簡単な言葉で目標が提示されており、その目標を達成するための小単元の目標が設定されている。</p> <p>②習得させたい表現につながるテーマの small talk が設定されている。音声による表現の習得から、文字による表現の習得につながる構成になっている。</p> <p>第2の観点</p> <p>①会話を聞き取る際の視点が明確に示されている。単元のゴール時に話したいことを事前に考え、導入の際に記入する「Your Plan」の欄がある。</p> <p>②小單元ごとに振り返りができるようになっており、学期ごとに学習したことを振り返る「Check Your Steps」が設定されている。できるようになったことをチェックできるよう、「My Picture Dictionary」に「CAN-DO の樹」が掲載されている。</p> <p>第3の観点</p> <p>①各活動が5領域のどれにあたるかがマークで示されている。どの単元でも見る・聞く→話す→読む・書くといった配列になっている。1単位時間の授業でどこまで達成すべきかが分かりづらい。</p> <p>②言語活動のテーマが自分自身のことから身の回りのことへと広がっていく流れになっている。</p> <p>第4の観点</p> <p>①登場人物が泣いていたり、亡くなった方を紹介したりしている部分がある。QRコードの位置が分かりづらい。QRコードで字幕付きの映像が見られるものがあるが、デジタルコンテンツの目次の部分が英語表記のみで、児童にとってどこを見ればよいか分かりづらい可能性がある。調べ学習に使える動画が用意されている。</p> <p>②2年間で使う表現は「My Picture Dictionary」に別冊でまとめられている。巻末には学習で使うカードが付いている。</p> <p>第5の観点</p> <p>①単元末の「Enjoy Communication」では、単元で習得したことを活用する場面が設定され、学期ごとの「Check Your Steps」では、これま</p>

	<p>でに学習したことを活用する活動が設定されている。一部、誰に何のために伝えることなのかが分かりづらい単元がある。</p> <p>②目的・場面・状況が分かるよう、イラストや写真とともに言語活動例が紹介されている。一部、「何のために伝えるのか」が分かりづらい部分がある。</p>
開隆堂	<p>第1の観点</p> <p>①単元の初めに単元の目標が提示されており、学習を進めるにあたり小目標も記載されている。巻末に can do list があり、観点別で振り返りができるように設定されている。</p> <p>②Let's play →Activity の順番で必要な表現を練習した後、伝え合う活動ができるようになっている。Let's play ではゲームで表現に慣れ、Activity でお互いに伝え合う活動が組み込まれている。単元で必要な語句や表現の練習を音声や映像を使って言語活動ができる構成になっている。</p> <p>第2の観点</p> <p>①単元の導入において、会話場面や状況が明確に示されている。聞き取りの視点も示されている。</p> <p>②教科書の最終ページに「CAN-DO チェック」として、3段階での自己評価と記述によって振り返る欄が設けられている。振り返る視点が領域ごとに「わかる」と「使える」に分けられている。1ページに1学期分（2つ～3つ）の単元の振り返り表が掲載されている。大單元ごとに「Let's Check」としてこれまでの学習を振り返る問題と、「Interview」として先生と会話をして学習内容を確認する場が設定されている。</p> <p>第3の観点</p> <p>①聞く活動から話す活動への流れで言語活動が構成・配置されている。また、音声で十分に慣れ親しんだ英語表現と文字とを結び付けるために、単元の後半に読む活動・書く活動が設定されている。</p> <p>②児童自身が経験したこと等が少しずつ詳しく伝えられるように段階的に言語活動を導入し、最終的に児童が伝えたい事柄をスピーチできるようになっている。</p> <p>第4の観点</p> <p>①同一の紙面に2種類のタッチの違うイラストが掲載されている。第6学年 Lesson4「My Summer Vacation」で、「海を渡った偉人たち」として津田梅子、渋沢栄一、北里柴三郎が、海外で学んだエピソードが紹介されている。</p>

	<p>②第5・6学年で使う表現がそれぞれ別冊「word book」にまとめられている。「word book」は、習得した表現を記入できる欄が設けられている。巻末に学習に使うカードが付けられている。</p> <p>第5の観点</p> <p>①単元のゴールの言語活動に向けて、言語材料に出合い、指導者のはたらきかけによってそれらを実際を使ってやり取りを行うという流れが設定されている。また、毎時に言語活動 Let's Try, Activity が設定されている。そして、3回の Check Your Steps において、習得した知識・技能を活用する「聞くこと」「話すこと」「話すこと〔やりとり〕」「書くこと」の活動が設定されている。</p> <p>②Activity2 のペアやグループでのやりとりの場面では、よい聞き手を育てるために、学習内容に合わせ、相手の話を聞いて「褒める」「質問する」「励ます」ための表現例を紹介するコーナーが設定されている。</p>
三省堂	<p>第1の観点</p> <p>①単元の初めに単元の目標が提示されている。また、小目標も記載されている。</p> <p>②単元ごとに HOP→STEP→JUMP という流れになっており、単元のゴールに向けてスモールステップの学習活動になっている。</p> <p>第2の観点</p> <p>①単元の導入において、コミュニケーションを図る場面設定や状況が明確なゴールが設定されている。</p> <p>②単元末に「ふりかえり」として3段階で自己評価する欄があり、できたことや工夫したこと、友達のよさを記述できるようになっている。</p> <p>第3の観点</p> <p>①各活動が4技能5領域のいずれに当たるかが明記されている。語句や表現をインプットしてから、聞く・話す活動中心の言語活動が設定されている。</p> <p>②自己紹介や地域、思い出等、伝えたいという思いをもって取り組むことができる言語活動が段階的に導入されている。</p> <p>第4の観点</p> <p>①写真に比べてイラストの色が薄い。多くの子供たちの持ち物としてランドセルが描かれ、女性の髪が長く、男性が短めである。</p> <p>②巻末に学習に使うカードが付いている。小カードはレッスンのどの活動で使用するのかがわかりにくい。</p> <p>第5の観点</p>

	<p>① 3つのUnitのゴールとしてJumpが設定されている。また、Jump Plusが発展活動として示されている。</p> <p>② Step-upやJUMPでは、ペアワークやグループワークをしながら、自分の伝えたいことを伝える活動が設定されている。</p>
教 出	<p>第1の観点</p> <p>① 各単元の冒頭に、簡単な言葉で目標が提示されている。</p> <p>② 無理のない活動量になっている。聞く活動から発信する活動へと、スモールステップで取り組む構成になっている。</p> <p>第2の観点</p> <p>① 単元の導入において、会話場面や状況が示されている。また、単元の初めにゴールが示され、「think」として、単元のゴールに話したいことを記述する欄が設けられている。</p> <p>② 各単元に「ふりかえろう」として、3段階で自己評価する欄が設けられている。</p> <p>第3の観点</p> <p>① 単元導入部分では、映像を見たり歌を歌ったりする活動が設定されている。</p> <p>② 児童自身が経験した事柄や思いを伝え合う言語活動が仕組まれている。相手の考えを記述する欄が設けられている。</p> <p>第4の観点</p> <p>① 5つの領域に関連した活動等の種類を示すマークやキャラクターを設定し、紙面に明示している。音声や動画等が視聴できるQRコードを、活動ごとに数か所示している。</p> <p>② 巻末の「My Word Bank」では、ジャンルごとに4線上に書かれた単語を示している。</p> <p>第5の観点</p> <p>① 単元末のFinal Activityにおいて、習得した知識・技能を活用する「読むこと」「話すこと」「書くこと」の活動が設定されている。</p> <p>② 話す内容やコミュニケーションについて気付きや思考を促すコーナーや、ペアやグループでの活動が多く設けられている。</p>
光 村	<p>第1の観点</p> <p>① 単元の目標だけでなく、段階ごとの小目標が記載されている。</p> <p>② 単元末に目指す児童の姿が明確に記載されている。</p> <p>第2の観点</p> <p>① 単元の導入において、会話場面や状況を明確に示している。聞き取る観点も示されている。</p>

	<p>②各単元末に「ふりかえろう」として、できたことや工夫したことなどを4段階での自己評価と記述によって振り返ることができるようになっている。</p> <p>第3の観点</p> <p>①主な活動内容が紙面に示されており、4技能5領域を組み合わせたものも設定されている。</p> <p>②少しずつ詳しく伝えられるように段階的に言語活動を導入し、最終的に児童が伝えたい事柄をスピーチできるように設定されている。スピーチを聞いている人が質問をする言語活動も設定されている。</p> <p>第4の観点</p> <p>①鮮やかな色合いで読みやすい。人種やジェンダー、ハンディーキャップ等に配慮されており、時代の流れに合っている。QRコードは主に教科書の見開き右上に記載されている。</p> <p>②単語はジャンルごとに色分けされている。第6学年の Picture Dictionary には、第5学年で記載のあった単語は記載されていないが、2次元コードから確かめられるようになっている。第5学年も、第6学年のものを調べることができる。第3・4学年で学習した単語には足跡マークが記載されている。</p> <p>第5の観点</p> <p>①単元末の Jump!において、習得した知識・技能を活用する「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の活動が設定されている。また、3回の「世界の友達」において、「聞くこと」「読むこと」の活動、「You can do it!」において、「話すこと」「書くこと」の活動が設定されている。</p> <p>②児童が「伝えたい!」と思えるように、コミュニケーションの目的や場面、状況が明確に示されている。また、誰が何のために伝えるのかという視点も示されており、自分の考えや気持ちを表現する活動が Unit の中心に設定されている。</p>
啓林館	<p>第1の観点</p> <p>①単元の初めに目標が提示されている。step1 step2 step3 と3段階の小目標が提示されている。</p> <p>②各単元が3ステップで構成されており、無理のない活動量になっている。</p> <p>第2の観点</p> <p>①単元の導入において、コミュニケーションを図る場面や状況が明確に示されている。「どんな場面で、どんなことを話しているか想像しま</p>

しょう」等、聞き取る視点が示されている。

- ②単元末に look back として、できるようになったことにチェックをしたり、実際に使える場面を考えたりする欄が設けられている。大単元のごとに REVIEW として、これまでの学習を活かした言語活動と振り返る場が設定されている。

第3の観点

- ①各活動が4技能5領域のいずれに当たるかが明記されている。聞く活動が多く配置されている。
- ②興味をもって取り組むことができる言語活動や体験した事柄について伝え合う言語活動になっている。尋ねた相手の答えを書く欄が設けられている。

第4の観点

- ①イラストでの人物の描き方が漫画調になっている。第5・6学年の表紙の色合いが区別しやすい。文字の量が多く、挿絵が小さい。QRコードを使ってActivityのヒントを見ることができる。
- ②巻末のWord Listに、イラスト付きで単語がまとめられている。主に関連する単元も記載されている。

第5の観点

- ①単元終末の Step3 において、習得した知識・技能を活用する「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の活動が設定されている。また、3回の REVIEW において、習得した知識・技能を活用する「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の活動が設定されている。
- ②Activity では、いっしょに調べたり、話し合ったりできる話題を取り上げ、ペアやグループの活動場面が多く設定されている。第6学年：Unit 2「Welcome to Japan.」の単元では、季節ごとに外国の人が日本で楽しめるものを、グループで話し合っ、アイデアを発表する活動が設定されている。